

平成 20 年度第 3 回（第 182 回）備中地区司書部会

日時：平成 20 年 10 月 22 日（水） 10:00～16:00

会場：岡山県立玉島商業高等学校 会議室・図書室

参加人数：19 名

司会進行：加茂清太郎（倉敷中央）

記録：岡本信二郎（倉敷商業）

1 開 会（玉島商業高校・校長先生）

2 協議事項

1) 平成 20 年度岡山県学校司書研究協議会（倉敷大会）の反省
実行委員会から反省事項を記したまとめを配布

2) 平成 21 年度岡山県学校司書研修会（玉野大会）について

日時：平成 21 年 7 月 23 日（木） 9：30～

会場：玉野レクレセンター

内容：著作権について東京から専門の講師を招聘して講義・質疑応答を行う。

分科会は 3 つ（岡山市司書・備前地区高校司書・高校図書室見学）

→著作権について、質問事項があれば、紙にまとめたもの（様式自由）を
次回司書部会のときに、理事（岡本・加藤）まで提出。

3) その他

・第 4 回司書部会は 12 月に県立図書館で行う予定。講師について希望は？
→本屋さんにディスプレイの工夫とか PR 方法などの話を聞いてみたい

・次回「わたしのすすめるこの一冊」

①悩んでいる生徒へ、気持ちの落ち着く本

②生徒が楽しめる写真集

③フリーテーマ

3 グループ研修

1) 「引き継ぎ班」による報告

昨年度からの班別研修で「引き継ぎ班」については研修成果の報告がまだだったので、班長の坂口司書から報告が行われた。

2) (午後からの作業と関連して) 選定基準・除籍基準についての研修

玉島商業の除籍作業について意見が集中。

除籍リストを作っているということだが「何のために」という質問が出た。

→事務室が作るよう指示された。また除籍本がほしいという職員も居るので。

→急いで起案するのでなければ、除籍時に抜いているカードさえあれば

いつでもリストは作れるのではないかと。リスト作成のための労力をもっと

緊急の仕事に回すべき。除籍本がほしい人にはリストよりも現物を見せて

あげればよいのではないかと。

3) グループ別研修（学校活動との連携班・資料研究班）

午前中、40 分程度研修した。内容は午後のまとめへ。

4 玉島商業図書館の除籍本選定

- ・グループ別研修のグループ単位で手分けして、玉商図書館内の本について、除籍すべき本あるいは書庫にしまうべき本を選定した。
- ・該当図書については、玉商図書部のほうで、除籍等を検討してもらうことにした。

5 グループ別研修（続き）

①「学校活動との連携」班

（参加校）玉島、青陵、高梁、笠商、玉商、倉工

（課題）

今回までに、学校活動における各校図書館の取り組み（図書委員会の活動をメインに・・・）についてのレポートを仕上げてくる。様式シートを配布済み。

（協議）

各校の取り組みを発表した後、5回目の研修ではどういう方向でまとめるかを検討。実践記録になりそうだ。きちんとした発表でなくとも、ある程度まとめて情報を部会内で共有できれば良いなということになった。

また、各校の取り組みについて、質疑をしながら詳しく情報交換し、自校の図書館で取り入れられることがあれば取り入れながら、さらにレポートを作成してやることとなった。

<現在出た活動>

スタンプラリー、文化祭展示企画、フィルターを書こう！、委員会だより、蔵書点検
図書館だけで終わらせず、先生方や学校全体の生徒を巻き込む形での活動が理想。

②「資料研究」班

- ・A班<ジャンル別>（倉商・倉敷南・総社南・高松農・矢掛・川崎医大付）

今回の研修テーマは「新書」。①自校の特徴、学校での扱い、②定期購読している新書（コメントも）、③比較的多めに買っている新書、その特徴、お気に入り新書、オススメの新書、④どんな新書が動いているか、⑤新書を活用した授業等の事例について、各校であらかじめまとめたものを持参して、情報交換した。

岩波新書を全点購入している高校で今後も継続して購入すべきか、という相談があり、議論した結果、今はそういう特定の新書を全点購入するよりも、種類の多くなった新書全体で選書するほうがベターではないか、という共通理解を得た。

次回は「絵本」について話し合う予定。

- ・B班<テーマ別>（天城・水工・中央・笠工・鴨方・井原）

「家庭科（家政科）に”男子生徒のお弁当づくり”に関する資料研究」

天城高で行われた家庭科の授業「お弁当づくり」（6人班でお弁当の献立を考え、買い物、作成、お弁当箱に詰めて試食という授業）で使われた資料一覧を作成。他校からもレシピ集が集まった。栄養に関する資料がなく、展開できず。

次回は各校得意な分野で特集展示を試みる。笠工「TV化・ドラマ化の本」、鴨方「食べ物の本」、水工「部活の本」「保健の本」、中央「卒業する人へ」、天城「ミステリー特集」（仮設定・変更可）。それぞれ①写真、②スケジュール、③調査に使ったツール、④問い合わせ件数、⑤ブックリストを作成。事例を持ち寄り話し合うことで、各校が展開できないか？